

特集
変わりゆく
カンボジア、
今の姿

国際協力の道

シャンティ国際ボランティア会
監事 中山 雅之
国士舘大学大学院グローバルアジア研究科 准教授



2019年3月撮影

国際協力が発明されてからおおよそ160年。アンリ・デュナンによる赤十字国際委員会の前身・五人委員会の結成が、現在の国際交流の一つの源流と考えられます。その後現在のNGOが創り出されたのが100年前、第一次世界大戦後に英国でセーブ・ザ・チルドレンが、第二次大戦後にOxfam (1942) や日本も大いに支援を受けたCARE (1945) が設立され、民間による国際協力が始まりました。政府による国際協力は1944年に国際通貨基金と国際復興開発銀行（世銀）の設立が合意されたことから、1948年の欧州復興計画や英国のコロンボプラン（1950）と続きます。これらの行きつく先に南北問題への対応として、国連開発の10年が1961年から始まり、慈善型や技術移転型また参加型などと考え方も変遷し、現在に至っています。

日本での国際協力の源流の一つは1877年の西南戦争時の博愛社で、NGOは1938年発足のJOCS。その後、戦後復興の支援を受けていたのが、支援をする側となってゆき、1970年代後半

からのインドシナ難民支援の時代となり、シャンティの設立もこの頃。1980年代の経済成長のさなかには、外資系NGOも日本のマーケットに参画してきました。1990年代は大きな震災と特定非営利活動促進法が施行されたこと、また企業経営の手法やIT技術を活用して活動を行う組織の参画などで、新たな国際協力の担い手が数多く誕生しました。

このように多くのNGOの設立や、グローバル化が進む中で身近な存在になった海外により、かつては希少であった国際協力は大衆化時代にあるともいえます。この状況で登場してきたのが、ソーシャルイノベーションです。ここには成熟化した市場を抱える企業、NGO以外の非営利組織もアクターとして参画し、SDGsを掲げ協働を目指しています。シャンティも地球市民事業課を新たに創設し、社会のニーズに合わせて組織に新しい風を吹き込んでいます。国際協力のこの先は、どのように変化するのか。変化する者のみが新たな道を歩めるのかもしれませんが。

「カンボジア」と言えば、まずは世界遺産の「アンコールワット」。ほかにも優美な伝統舞踊「アプサラの舞」や隣国と比べ辛さや香りにくせがなくて食べやすい「料理」など、魅力がいっぱいです。近年はフォトジェニックな観光地として、また、サッカー代表監督に本田圭佑選手が就任した国としても話題です。そんなカンボジアにシャンティが事務所を開設したのは1991年のこと。当時のカンボジアとシャンティを振り返り、変わりゆくカンボジアの今の姿を特集しました。

Shanti vol.301 CONTENTS

- 4 特集
変わりゆくカンボジア、今の姿
- 14 シャンティな人たち 番外編
- 20 世界の絵本を読んでみよう
「若いめすねずみの結婚相手」
- 22 世界のおやつ旅
ミャンマーのおやつ／モーピサレ
- 23 世界の現場からAIRMAIL
From 活動の現場 & 現地の子どもレポート
▶ミャンマー
- 28 Shanti@Tokyo
- 30 ファインダーをのぞいて
「カンボジア取材を終えて」
- 31 お知らせ
- 32 道
「国際協力の道」
監事 中山 雅之
(国士舘大学大学院グローバルアジア研究科 准教授)



今号の表紙
フノンペン市内の街角で
2019年撮影
©Yoshifumi Kawabata

変わりゆく

カンボジア、

今の姿



©Yoshifumi Kawabata



激動のカンボジアと日本

日本とカンボジアの交流の歴史は古く、今から400年前にさかのぼります。朱印船貿易が盛んで日本人町があり、アンコールワットを参詣した日本人が何人もいたことが記録に残っています。

その後、鎖国によって関係は途切れ、次に登場するのはずつと時代が下った1940年代前半です。日本軍が仏領インドシナに進駐し、1945年3月にフランス軍を武装解除。シハヌーク国王は独立を宣言しますが、8月の日本の敗戦によってフランスは独立を認めず統治を継続します。

90年間フランスの保護領となっていたカンボジアはシハヌーク国王の下、1953年に「カンボジア王国」として完全独立を達成し、発展の時期を迎えます。日本とは1953年に外交関係を樹立し、翌年にカンボジアは対日賠償請求権を放棄。1955年にシハヌーク国王が国賓として訪日し、日本にとって戦後初の友好条約を結びました。

しかし、1970年のクーデターによって親米政権になると内戦が始まり、その後、過激な共産主義を掲げる親中ポル・ポト政権が権力を掌握すると、飢餓と殺戮によって200万人とも言われる人々が亡くなりました。1979年にポル・ポト政権は崩壊しますが、その後も内戦が続きました。東西冷戦構造の崩壊の中、和平への機運が高まり、1991年10月にパリ和平協定が締結されました。それに従って1992年3月から国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）が展開し、PKO活動に日本は戦後初めて自衛隊、文民警察、選挙監視団を派遣しました。日本を含めた西側諸国の支援により和平、復興、開発とステップを歩んできたカンボジアは2004年にWTOに加盟し、海外からの投資によって2007年まで10%を超える経済発展を成し遂げ、7%近い経済成長を続けています。また、この数年で数百社の日本企業が進出し、在留邦人は4000人を超えました。

文筆 手塚耕治

カンボジアってこんな国

カンボジアは、インドシナ半島の南西に位置し、南をシヤム湾、国境をタイ、ラオス、ベトナムに囲まれています。メコン川が北から南へS字形に約500kmにわたり貫流し、雨季の流量は乾季の20倍にふくれ上がります。気候は熱帯モンスーン気候の高温多湿で蒸し暑く、年平均気温は27℃。12月から5月が乾季で、雨季は6月から11月。

戻し、地域社会の核となる寺院崩壊すると、人々は心の奥深くに封じ込めていた信仰を取り戻し、地域社会の核となる寺院

1979年にポル・ポト政権が弾圧され、すべての仏教寺院(3369カ寺)は閉鎖。6万5千人いた僧侶はすべて還俗させられました。しかし

紀元前3世紀、カンボジアに仏教が伝来して以来、仏教はカンボジアの社会に深く浸透し、「カンボジア人であることは仏教徒である」といわれるほど人々の信仰に深く根ざり、仏教はカンボジアの精神文化の基盤となっています。暗黒のポル・ポト政権時代

(1975年4月〜1979年1月)

にはあらゆる宗教が弾圧され、すべての仏教寺院(3369カ寺)は閉鎖。

6万5千人いた僧侶はすべて還俗させられました。しかし

1979年にポル・ポト政権が崩壊すると、人々は心の奥深くに封じ込めていた信仰を取り戻し、地域社会の核となる寺院

しかしながら、破壊された仏教が人々の信仰によって蘇ったように、コミュニティの中心にお寺があり、人々の心の中に仏教がある限り、どんな問題が起ったとしてもカンボジアの人々は必ずその問題乗り越えてゆくことでしょう。

カンボジア国立仏教研究所の再建予定地



1995



2019

再建後の同研究所(建物手前)

仏教国、破壊からの復活

を再興させ、ゼロからの村づくり、国の復興が始まりました。

内戦から和平、復興、開発へ。そして経済発展を目指すカンボジアですが、その反面、民主化の後退、格差の拡大、開発による環境破壊や土地問題の激化、伝統文化の衰退、モラルの退廃などの問題が起っています。

しかしながら、破壊された仏教が人々の信仰によって蘇ったように、コミュニティの中心にお寺があり、人々の心の中に仏教がある限り、どんな問題が起ったとしてもカンボジアの人々は必ずその問題乗り越えてゆくことでしょう。



1987

プノンペンのモニボン通り



2017



2019

左：同モニボン通り
下：建設ラッシュのプノンペン市街
©Yoshifumi Kawabata

「まち」の昔と今

現在、150万人ほどが暮らすカンボジアの首都プノンペン。内戦が終結した1979年の人口は2〜5万人ほどだったと言われています。近年は、中国の洪水のような投資により高層ビルが立ち並び、新車や新型トゥクトゥクが忙しく街の中を行き来しています。

経済的な変化や日本企業

世界銀行によるとカンボジアは2015年の一人当たりの国民総所得(GNI)が1070ドルとなり、低所得国(1025ドル以下)から低所得国(1026ドル)になり、4035ドル)になりました。しかしながら、国連の分類では引き続き「後発発展途上国(LDC)」で、カンボジア国

民の35%※がまだ貧困状態にあるといわれています。カンボジアは今後も経済成長を続けながら、貧困層の生活レベルを向上させてゆかなければなりません。そのためには民間投資を促進し企業活動を盛んにするとともにカンボジア政府や市民組織が自立・発展するように各国政府や国際NGOなど

※引用 UNDP発表の多次元貧困指数
文筆 手束耕治

内戦後の復興から発展へと国が変化する中、カンボジアの教育事情も大きく変わりました。学校が増え、就学率も改善し、特に「量」の面で目覚ましい発展を遂げましたが、学びの「質」の改善が大きな課題となっています。

[教育] の 昔と今



2019



2000

現在のブノンベン近郊の学校。校舎は古いが、教材が教室の壁一面に貼られている。

©Yoshifumi Kawabata

寺院の中にある教室で勉強する子どもたち

内戦終了から数十年。国際社会の支援もあり、カンボジアの子どもたちの教育へのアクセスは大幅に改善しました。こうした中で今問われているのは、「学校教育は子どもたちの学びにきちんとつながっているのか」という教育の質の問題です。

2012年に行われた小学校低学年児童の読解能力テストでは、小学1年生の半数が文字を1文字たりとも識別できず、2年生の半数が常用単語

格差を是正し困難な状況にある子どもたちが貧困から脱却するためには、公教育の質を改善することは不可欠です。また、学習達成度の低さは国の発展を担う人材育成を妨げるものであり、カンボジア政府にとって深刻な問題です。



2019 井戸からの水くみと植物への水まき当番



2019 ブノンベンの学校 ©Yoshifumi Kawabata

これに対しカンボジアの教育、青年・スポーツ省は、さまざまな改革を急ピッチで進めています。優秀な人材が教職に就くことを促すための教員給与の引き上げや、幼稚園から高校までのカリキュラムの改訂。教育行政では、実力ある若手行政官の活躍も目立つようになりました。

学びの「質」の改善とNGOの役割

入れると感じます。同時に複雑な政治状況の中で中立の立場を維持しつつ、中央で進められる改革が農村部の僻地や貧困層に届くよう働きかけていくことも、NGOの重要な役割ではないでしょうか。

文筆 カンボジア事務所 萩原宏子

子どもたちは学んでいるのか

内戦終了から数十年。国際社会の支援もあり、カンボジアの子どもたちの教育へのアクセスは大幅に改善しました。こうした中で今問われているのは、「学校教育は子どもたちの学びにきちんとつながっているのか」という教育の質の問題です。



上：ブノンベン市内の学校校舎
中：国立図書館内部
下：村人が力を合わせて建設した校舎



2017



2017

上：コミュニティ図書館事業での夜間識字教室
下：建設したコンポントム州のコミュニティ図書館
©Yoshifumi Kawabata



幼児教育事業での絵本の読み聞かせ。「おおきなかぶ」(福音館書店) ©Yoshifumi Kawabata



1994

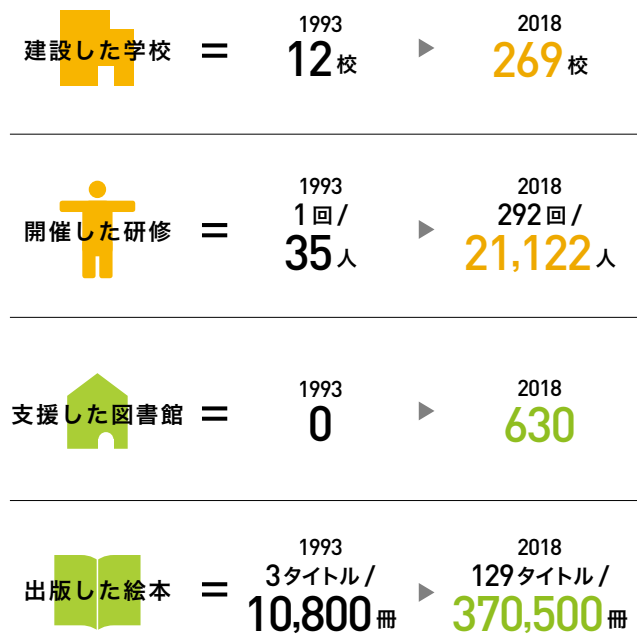


1992



1993

上：バタンバン州での学校建設
下：「おはなし」活動
左：小学校での図書館活動



図書館、そして幼児教育の質の改善事業へと広がっています。学校建設活動は国内の戦争避難民20万人、国境の帰還難民36万人の支援事業として開始。まだ地雷除去も始まっていない数千人が暮らす村にニツパヤシでできた小さな小屋の小

学校を建て替え。1992年に木造2棟、10教室の校舎が完成。これを契機にあちこちの村人から学校建設の直訴を受けるようになり、住民参加の学校建設活動が広がってゆきました。

文筆 手束耕治

1993年、図書館活動立ち上げ調査時、40校余りの小学校で読み聞かせを行いました。この時、聞き入る生徒の様子に感動した学校の先生が、「私の学校で読み聞かせをしたい」と声を上げました。先生が変われば生徒、そして学校が変わる。変化を聞いた周辺の学校がこの先生に頼み、自転車に

絵本を積んだ巡回図書活動が始まりました。一つの小学校から周りの地域、州全体、さらに隣の州へ。やがて教育省から、全国の小学校に図書館活動を広める方針が打ち出されるまでになりました。このように始まった活動は、公立小学校からスラム、地方の寺院、生涯教育の拠点としての「コミュニティ

シヤンテイの教育活動の広がり

[シヤンテイ] の 昔と今

20年にわたる内戦によって傷ついたカンボジアの教育文化の復興を支援するため、シヤンテイは1991年3月にペンペンに事務所を開設し、人材育成、印刷出版、図書館活動を開始しました。近年は教育・文化支援活動や、公立幼稚園における幼児教育の質の改善などに取り組んでいます。

所をカウンタートパートとして仏教や文化図書への復刻配布が始まり、全国の寺院に配布しました。1995年には、仏教の根本聖典であるカンボジア語版トリピタカ（南伝大蔵経）を復刻し、全国の約千の寺院に贈呈しました。また、仏教研究所本体の再建事業にも協力しました。

カンボジアは1970年から20年続いた内戦が終了、2000年代からは外国の投資による経済発展へと激動の近代を歩んできましたが、今でも国民の35%が貧困です。幼児教育や中学校の就学率の低さ、妊産婦死亡率や子どもの栄養不良率の高さ、開発による住民移転訴訟の増加、汚職や金権主義の蔓延、盗難や交通事故の増加。青少年への覚せい剤などの広がりなど多くの社会問題があります。今後、カンボジアがさらに発展を続けるためには教育や衛生状況の改善、海外投資、企

業誘致による産業の多様化、市場産業の振興、産業に必要な人材の育成、民主的な政治の実現などが重要です。

シャンティが1990年代にクメール語の仏教や文化の図書を復刻・出版していた時に、元文化大臣でプノンペン郊外にクメール瞑想文化センターを開いて活動していた故チェンボン氏の瞑想の本を出版支援したことがありました。何度かセンターを訪ねて、親しくお話を伺ったことがあります。その時、氏から「TEZUKA、カンボジアで活動するならば、100年後のカンボジアの人たちからいい仕事をしたねと言われるような活動をしてください」と言われたことを忘れることができません。いつまでもカンボジアの人々と「共に生き、共に学ぶ」シャンティであり続けることが大切です。

これまでと、 これからの未来



シャンティアドバイザー
カンボジア宗教省
仏教研究所顧問
手束耕治

1991年5月、プノンペン市内の高校に「日本・カンボジア友好職業訓練センター」の建設を開始し、1992年7月より印刷活動を始めました。カンボジア政府から依頼された仏教や文化の図書ほか、国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）より依頼の選挙関連のポスター、文書などを大量に印刷し

ました。また、当時はまだほとんどなかった絵本や紙芝居を次々に出版し、図書館活動を通じて全国の学校や図書館に配布しました。

伝統文化活動はボル・ポト時代に破壊され、カンボジアの文化の基層となっている仏教の復興を支援するために1992年8月より宗教省国立仏教研究

手束所蔵の写真

- 1 仏教研究所再建事業
- 2 カオイダン難民キャンプ内の図書館でのショット
- 3 プノンペン市内に建設した「日本・カンボジア友好職業訓練センター」周辺の家屋。家も粗末でとてもプノンペンの市街地とは思えない。
- 4 「日本・カンボジア友好職業訓練センター」内の印刷所。ここでたくさんの絵本が印刷された。
- 5 パットンバン窯業訓練センター。カンボジアの伝統的なタタキによる壺作り
- 6 シェムリアップ市内でのトリピタカ配布。行列の先頭を歩く州知事（右）と高僧
- 7 仏教と開発、仏教寺院とコミュニティー開発研修会。夜になっても参加者の熱心な意見交換が続いた。



シャンティな 人たち

番外編

スタッフ紹介

東京事務所に勤務する
スタッフにオリジナル
の「シャンティ川柳」を
詠んでもらいました。

総務・
人事部

経理課



ひび こうじょう
日比 光紹
支援者リレーションチーム
さあ令和！
新たな時代へシャンティも



のぐち さなえ
野口 早苗
支援者リレーションチーム
なぜだろう？
撤回早いのプロ以上



よしだ けいすけ
吉田 圭助
支援者リレーションチーム
おはなしの
可能性は 無限大



やまもと さとこ
山室 仁子
支援者リレーションチームチーフ
ありがとう
重み感じる 人の声



すずき あきこ
鈴木 晶子
課長
うんとこしょ
大きなかぶより でかい夢



やまだ たかこ
山田 貴子
アシスタント
欲しければ
自分でつくる 低予算



はなわ かおり
高 香織
アシスタント
ま、いっか
美魔女あきらめ 作業服



きよはら えみこ
清原 笑子
アシスタント
絵本積む
トラック背中に 手を振って



かめたに みほこ
亀谷 美保子
アシスタント
現地の笑顔
シャンティみんなの 宝物



よしだ やすひろ
沼田 安宏
広報担当
テレビ見て
つついっ気になる アジア特集



ひらしま ようこ
平島 容子
マーケティングチームチーフ
電話口
何度も聞かれる 団体名



こばやし ゆりこ
小林 裕司
データ管理・IT担当
NGO 手放せないのは
ノートPC



やまもと えいこ
山本 栄吉
チーフ
避難民
ここに住むなと 非難され



やまもと えり
山本 英里
事務局長/
アフガニスタン事務所所長
たくさんの
支えと共に けもの道



おかもと わかくさ
岡本 和幸
専務理事/
クラフトエイド課課長
夢語れ
子等よ未来の 主人公



いのまた さなえ
猪又 佐奈江
アシスタント
伝票の うしろに見える
笑顔たち



にしかわ たかひろ
吉川 剛
課長/総務・人事室室長
支援者つなぐ けもの道
一度入れば 心地よし
龍 龍太郎
経理担当



よしかわ たかひろ
吉川 剛
課長/総務・人事室室長
支援者つなぐ けもの道



栗原陽紀
海外事業担当
スカイプは
現地とつながりのちづな



岩松智子
海外事業担当
シャンティの
おやつはいつもグローバル



石塚咲
海外事業担当
ポーペルニヤン
ラオスの魔法の合言葉



浅木麻梨耶
海外事業担当
兼アフガニスタン事務所調整員
忘れてた
現地のお休み 金曜日



菊池礼乃
課長
本開き
国境越えた冒険へ



小長谷陽子
アシスタント
疲れても
クラブトを見て回復す



黒田弘啓
海外事業担当
新元号
新たな職場 再出発



竹本舞
海外緊急救援担当
行きたいな
アフガニスタン いつの日か



栗本愛
海外事業担当
届きたい
未来を創る 教育



佐藤純恵
アシスタント
タイ時間 納期日過ぎて
マイペンライ



高橋布美子
入荷して
全て欲しくなる 一点もの



嘉味田倫慧
作り手の
姿を想い 袋詰め



渡辺ちひろ
課長補佐
行ってこい！
古ダンボールの 無事祈る



加藤由里子
国内事業担当
手を取り合い
笑顔絶えない 地球市民



飯嶋麻里
国内緊急救援担当
気づいたら
ほとんど出張 緊急救援



渡邊珠人
国内緊急救援担当
兼国内事業担当
足音が聞こえてくるよ
オリンピック



関尚士
課長
地球市民
成るは誰から 私から

理事・監事が 選出されました

2019年3月27日に行った定時社員総会において、
2019年7月からの理事14人と、監事2人が選出
されました。

※肩書きは2019年7月時点のもの



会長
若林 恭英
長野県・安曇寺 住職

貧困・偏見・差別という困難な世界から子どもたちが自ら立ち上がるための力は、学ばさっかけを提供して行くこと、一人の力は限られている。だからこそシャンティ(平和)への強い願いを紡いで行きたい。



理事
下澤 嶽
静岡文化芸術大学文化政策学部
国際文化学科 教授

シャンティの現地活動をさらに質を高め、活性化することのできるだけお手伝いをさせていただければと思います。微力ではありますが、よろしく願います。



理事
竹俣 昭孝
東京都・大林院 住職

今年の3月の総会にて理事に選出されました。今まで外部よりシャンティの活動を見てきましたが、これからは現場の皆さまの手助けを少しでもできるようにしたいと思います。



理事
茅野 俊幸
長野県・瑞松寺 住職

時には鳥のように羽ばたいて世界をみつめ、時には虫のように身近な地域の問題に向き合い、時には魚のように世の中の流れを読み、役員としてシャンティの活動に関われたらと思います！



副会長
神津 佳予子
有限会社ケイアンドアイ
代表取締役社長

すべての子どもたちが、生きるってこんなに素晴らしいことなんだ！と実感できる世界になるように、微力ながら尽力いたします。



副会長
三部 義道
山形県・松林寺 住職

ひとの幸せとともに喜び、ひとの悲しみに心を痛める。そんな心の人々でいっぱいシャンティな社会を願ひ、共についでいきたいと思います。まずは足元から。



専務理事
岡本 和幸
千葉県・真光寺 住職

専務理事となり、二期目を迎えます。会員支援者の皆さまと共に、職員一同力を合わせて、当会の基盤を強化し、アジアの子どもたちの未来の糧となる活動をさらに推進していききたいと思います。



理事
浜野 隆
お茶の水女子大学基幹研究院
人間科学系 教授

これまで、シャンティの活動から多くのことを学ばせていただきました。専門である教育学の知見を活かして、教育協力事業に貢献させていただければと思います。



理事
八木澤 克昌
シャンティ国際ボランティア会
アジア地域ディレクター

使命の「ミッション」、情熱の「パッション」、夢の「ドリーム」。頭文字を略して「ミパド」から「ミパド+」。アジアの現場の最前線から国境を超えて「伝える」「つなぐ」「創る」。



理事
山本 英里
シャンティ国際ボランティア会
事務局長

これまで多くの困難な中で強く生きる子どもたちを目にしてきました。時間はかかりますが、一つ一つの成果の積み重ねが社会を変えていく上で重要だと思っています。みなさんと共に、平和な社会への実現に向けて前に進んでいきたいと思います。



常務理事
秦 辰也
近畿大学国際学部 教授

平成から令和へつなげる節目の年。竹に例えれば強固であるほどしなやかに対応し成長できるでしょう。教育・文化の先にある平和をめざし、76億分の1の力を結集していきたいと思います。



常務理事
早坂 文明
宮城県・徳本寺 住職

「十年ひと昔」であり、「三十年は一時代」とか。昭和から始まったSVAは十分に時代を築いてきた。今また「SVAの後に時代ができた」と言われるような活動が求められている。「濁れる水の流れつつ澄む」流れを止めまい。



理事
有馬 嗣朗
山口県・原江寺 住職

行には願いがなければならぬ。願いがあから行ずる。誰もが願う社会とは。その社会作りとは。シャンティはきつと作ります。



理事
渡邊 智恵子
株式会社アバンティ
代表取締役会長

3期目を務めさせてもらいます。今回のミッションはクラフトエイドをいかに自立できるセクシオンにするかであります。今までの経験を生かして皆さんに活用してもらえらるクラフトエイドに仕上げていきたいと思っています。



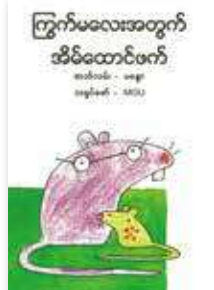
監事
野中 茂
野中公認会計士事務所
公認会計士

NGOを取り巻く外的・内的環境が厳しさを増す中、「本の力を生かす力に！」の初心を忘れず、「公益」の名に恥じないようコンプライアンスとガバナンスに気を配ってまいります。



監事
中山 雅之
国士館大学大学院
グローバルアジア研究科
准教授

世界が変わる中、国際協力はどこへゆくのか。戦略は環境変化に合わせて、限られた資源で成果を出す行動です。これらに皆さまと行動を共にできるのを楽しみにしています。



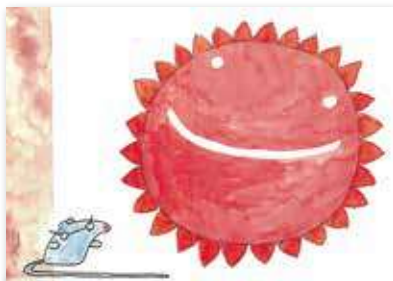
若いめすねずみの 結婚相手



2

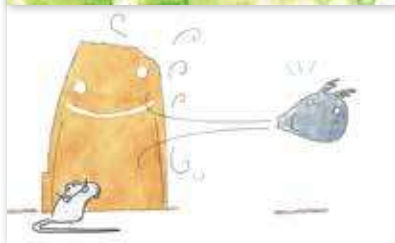
母ねずみは太陽に娘ねずみと結婚するようお願いしました。
太陽は言いました。「私はあなたが思っているほど強くありません。なぜなら、雲は私を覆い、遮ることもできます。」

1
昔、誇り高い一匹の母ねずみがいました。その娘のねずみはとても美しく、多くの若いおすねずみが求婚を申し込むほどでした。ところが、その母ねずみは、どのおすねずみにも娘との結婚を許しませんでした。



3

雲は言いました。「もしも風が来たら、雲は広がるか散らなければなりません。」
風は言いました。「私よりも堅い土手の方がもっと強いです。」



6

この世で一番強いのはねずみだと分かった母ねずみは満足し、娘ねずみと彼女の愛する若いおすねずみとの結婚を許し、祝福しました。

4



土手は言いました。「私は牛の角で突いたりされると崩れてしまいます。」
牛は言いました。「私はいつもロープにつながれ、従わなければなりません。」



5

そして最後にロープが言いました。「私よりもねずみの方が強いです。もしねずみが私を噛めば、バラバラにちぎれてしまうからです。」



世界の現場から

AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、
アジアの各国で活動する
シャンティの様子や
スタッフを紹介します。



「ぐりとぐら」作：中川李枝子 絵：大村百合子（福音館書店）

From
Myanmar
ミャンマー

2014年よりピー郡に事務所を開設し、
図書推進活動を行うミャンマー事務所。
ミャンマー全土へ向けて、活動の幅を広
げる現地事務所の様子を紹介します。



ミャンマー ピー事務所
総務担当
スウさんの
おすすめおやつ

みんなの笑顔をつくる
世界のおやつ旅

米粉で作られる モチモチお菓子

ミンガラバー（こんにちは）！
ミャンマーの街の屋台で売られている
「モーピサレ」という定番おやつを知っ
ていますか？ 厚みのあるクレープの
ような見た目で、屋台では主にスイーツ
系の黒砂糖味と大人に人気のバクチー
味の2種類が売られています。生地に
米粉を使っているのも、もちもちとし
てて病みつきに！ 直径10cmと大きめ
ですが、お腹が空いている時は何枚でも
食べてしまうほど。一つ100チャット
（7〜8円）で買えるので小腹が空いたとき
にはもってこいです。特にできたては熱々
でもとってもおいしいのでおすすめです！

ミャンマーのおやつ
モーピサレ
မုန့် များသလက်



総務担当のスウさん。趣味は読書
と旅行。図書館活動や学校建設
活動チームのサポートをしています。



街中の屋台で買うことが
できます。目の前で作って
くれるので、熱々のできた
てを食べることができます。

Hot Topics

①子どもたちの声

読み聞かせや絵本に触れることが初めての子どもも多く、初めての絵本に目を輝かせ、とてもうれしそうにします。読み聞かせが終わると一目散に絵本を取りに来てくれ、子どもたちの興味が伝わってきます。

②東バゴー地域での研修

以前研修を受け、既に児童サービスを実践している西バゴー地域の図書館員に先輩として研修に参加してもらい、児童サービスの普及に取り組んでいます。読み聞かせなどの研修を通じ、図書館員や情報広報局の方々が自信を持って児童サービスを提供できるようにしています。



③児童サービスをミャンマー全土へ

ミャンマー全地域の公共図書館の職員を集め、児童サービスに関する研修を2日間実施しました。研修を終えた職員が各地で児童サービスの概念や実施方法を共有し、読み聞かせ活動がミャンマー全土に広がっていくことが期待されます。



ミャンマー事務所
カウンターパート渉外担当
トータ

PROFILE

8年間小学校教員として勤務の後、ヤンゴンにてツアーガイドのトレーニングを受ける。NHKヤンゴン支局にて1年間TVプロデューサーとして勤務後、ツアーガイドとして働き2014年に入職。

ミャンマーは未だに開発途上
にあり、教育は国の将来のため
にも重要な課題です。絵本の読
み聞かせは、子どもの成長に不
可欠です。読み聞かせの活動は、
子どもたちの将来を変えるきつ
かけにもなると感じています。
ミャンマーの人々にとってはま
だまだ新しい考え方ですが、児童
サービスの重要性や手法を図書
館員など多くの方々に理解して
もらい、ミャンマー全土の子ど
もに広げていきたいです。



From
Myanmar

ミャンマー

2011年の文民政権成立後、急速に民主化が進むミャンマー。2014年の事務所開設より行う読書推進活動や児童サービスについてご紹介します。



児童サービスをミャンマー
全土へ広げる活動

ミャンマー事務所では、図書館員や職員に向けて、紙芝居や絵本の読み聞かせの研修や指導を通じて、児童サービスの環境を整備してきました。学校への移動図書館活動や図書貸し出しサービスを提供し、子どもたちが図書にアクセスできる環境を整えています。現在はこれまでのノウハウを活かし、事務所のある西バゴー地域から、東バゴー地域へ活動を広げています。国内で出版される絵本は良質なものが少なく、子どもが絵本を読む機会が少ないミャンマーですが、読み聞かせを行うと、子どもたちはとても喜び、読み聞かせの後すぐに絵本を取りに来るなど、絵本に対する興味や関心はとても高いと感じます。

絵本の読み聞かせが子どもの
将来を変えるきっかけへ

From Myanmar / ミャンマー 現地の子どもリポート

ミャンマーで児童サービスを利用する女の子にインタビュー。将来、ツアーガイドになることを夢見るマ・ミュー・ニン・コさんの普段の一日を紹介します。



おすすめは【名物ジュースとお祭り!】
暑さを吹き飛ばすサトウキビジュースは、1杯10〜20円ほどで飲み、自然の甘味と夏の暑さから何杯でも飲みます! 4月にある一大イベント「水かけ祭り」は街のみんなが楽しみにしています。

英語で海外の人にミャンマーを紹介したい!

庭師の父と看護師の母と、植物に囲まれて3人で暮らしています。親友と一緒に折り紙で飛び出す絵本を作ったり、折った折り紙を家に飾ったりするのが楽しみです。将来の夢はツアーガイドになること。前に「マンダレー」に行ったときに、海外の方にミャンマーの良い場所をたくさん紹介したいと思いました。英語の映画を見たり、英語の授業を頑張っています。英語が話せるよう心掛けています。海外の人たちと英語でコミュニケーションをとれるようになって、ミャンマーのために頑張りたいです。

ミャンマーから マ・ミュー・ニン・コさん(12歳) がリポート!



私のお気に入り



「学校の竹やぶと絵本」
学校の大きな竹やぶの周りがお気に入りの場所。竹やぶが日陰を作ってくれます。『うずらちゃんのたからもの』(福音館書店)という絵本が好きで、宝探しの様子を見てとてもわくわくします。



新商品がたくさん出来ました
今回の新商品制作には、デザインや商品企画を仕事にしているプロの方々にご参加いただきました。おかげで魅力的かつ機能的な商品がたくさんできました。



2019年春にブランドリニューアル
クラフトエイドはブランドリニューアルを行い、ロゴが新しくなりました。作り手とアイテムを通してつながりますように、という想いを込めて<CRAFT>と<AID>のAをつなげました。

CRAFT
AID

オンラインストアもリニューアル
商品の説明だけでなく、民族や生産者の情報が盛りたくさん。商品はどんな人たちが作っているのか、作り手のストーリーなど現地の様子をお楽しみください。

お気に入りアイテム

アフガン・小花のネックレス



アフガニスタンはお花や緑の多い自然豊かな国。そんなアフガニスタンのお花をモチーフにしたネックレスは、軽くてシンプルなデザインながらコーディネートアクセントになります。



PROFILE
高橋 布美子

民間企業勤務後、NGOに入職。カンボジアに駐在先住少数民族の方々と一緒に自然環境や伝統文化を守る活動を行う。
2018年5月に入職。



暮らした文化、想いを知り
消費について考えるきっかけに

アジアの先住少数民族の生活は、経済価値で計れば苦しいかもしれません。ですが、自然に寄り添い、家族や知人が助け合って暮らす様子は、とても幸せそうにも見えません。そんな伝統的な暮らしのポジティブな面を多くの方に知ってもらいたいと考え活動しています。

現在私は、スンバグを制作するカンボジアの生産者団体「クローマークロスショップ」を担当しています。これまで制作した中で、ある日バタリと連絡が取れなくなり心配していたら、担当者が怪我をしていたり、雨季で村が浸水して織り機が使えなくなったこともありました。

また、刺繍などを畑仕事や家事の合間にされる生産者も多く、商品が少し汚れていることもあり。日本で販売する際は、こういった状況は避けたいところですが、これが現地の方たちのもの作り方とも思うのです。どこまで日本に合わせるつもりなのか？ものを作り売ることの難しさを日々感じています。国内での販売活動では、多くのお客様と直接お会いすることが出来ます。長い間、商品を買ってくださった方も多く、皆さまに活動を支えていただいていることを実感しています。クラフトエイドの商品を通し、より多くの方に生産者の暮らしや伝統文化を知ってもらい、作り手と買ってくださいる方々、双方の顔が見える関係を作りたいです。

シャンティからのお知らせ

「クラフトエイド」 ブランドリニューアル

1985年にはじまったシャンティのフェアトレード事業「CRAFT AID (クラフトエイド)」は、2019年4月にブランドリニューアルを行い、オンラインストアやロゴを刷新し、新商品の販売を開始しました。



人事のお知らせ

●入職

永井 新生 事業サポート課 海外緊急救援担当 (4/1付)
黒田 弘啓 事業サポート課 (5/1付)
加藤 由里子 地球市民事業課 (6/1付)
柴田 茂寛 事業サポート課 緊急救援担当 (6/1付)

●退職

瀧谷 裕美 経理担当 (2018年末)
萩原 宏子 カンボジア事務所 調整員 (4/30付)
竹内 海人 事業サポート課 海外緊急救援担当 (4/30付)
森野 めぐみ 総務・人事部 総務担当 (6/30付)
石田 理絵 クラフトエイド課 (6/30付)

インドネシア・スラウェシ島地震 支援活動報告

2018年9月のインドネシア・スラウェシ島地震で被災した女性を対象に、2019年2月より生計回復支援事業を行ってきました。コーヒーや魚介類などの加工食品の製造、販売を支援しています。



編集後記

1991年にブノンペンに事務所を設置してから、カンボジアは大きく変化しました。街並みはもちろん、経済や人々の暮らしも。月日の経過に伴い、活動の担い手が変わることありますが、抱く想いは当時と変わりません。誰もが安心して暮らせる平和(シャンティ)な社会の実現を目指して。(召田安宏)

シャンティ 2019年夏号(通巻301号) | 2019年7月1日発行

発行人: 若林恭英
発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編集人: 鈴木晶子
編集・制作: 株式会社文化工房
イラスト: きよはらえみこ
印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



ブノンペンの高層ビル群。川を挟んだこちら側にはイスラム教徒たちの暮らす貧しい地域がある。

カンボジア取材を終えて

2019年3月、シャンティの今昔物語をテーマにカンボジアへ取材に行かせていただきました。私自身が同国を初めて訪れたのは10年以上前のこと。タイ・バンコクから長距離バスでシエムリアップに移動したのですが、国境を越えた途端悪路に変わり、タイとの格差を実感しました。当時のカンボジアは暗い雰囲気を感じていた気がします。今の煌びやかな様子を見ると隣国との経済格差も多少は縮まり、恩恵に預かる人々も多そうです。

ただ、一概に経済的發展を喜ぶことはできません。「物価が上昇して生活は苦しくなるばかり」とは、ブノンペンのスラムに暮らす女性の台詞です。弱い立場の人々を置き去りにしては本当の発展とは言えません。これからのこの国の正念場といえるでしょう。



上: フール付きルーフトッパーから望んだブノンペンの夕景。
下: 経済發展は美しい暮らしをさらに苦しいものにする不満を述べた女性。

Shanti's PhotoLog

ファインダーをのぞいて

